

(社) 日本建築学会 近畿支部  
2025 年度 第 2 回 空気環境部会議事録 (案)

日時 : 2025 年 11 月 5 日 (水) 18:00~20:00 頃  
場所 : 大阪大学工学研究科 オープンイノベーションオフィス  
出席者 (敬称略)  
: 竹村, 松尾, 東, 阿部, 小椋, 金, 山口, 山澤, 山中, 吉村, 河野 (記録)

欠席: 小林, 齋藤, 崔, 吉原,

資料 :  
・ 2025 年度第 1 回議事次第 資料 1-0  
・ 2024 年度第 4 回議事録 資料 1-1  
・ 空気環境部会 部会員名簿 (2025 年 6 月版) 資料 1-2

議事:

1. 前回議事録確認

前回議事録が確認された。

2. 新入部会員の審議

小椋先生 (京都大学) の入会が承認された。

大阪大学の研究室の博士課程学生 3 名 (花谷様、明石様、李様) の入会が承認された。(山澤先生)

3. 次年度予算請求

年度末勉強会 (3 月) で予算を計上している。(竹村先生)

次年度度の部会についての構想。(竹村先生)

・ これからの換気基準について。

(過去に換気基準をテーマとしたシンポは、2014 年 3 月に開催されたことがある。)

4. 次年度シンポに向けての相談

・ 昨年度は、皮膚ガス、微生物がテーマ。

・ SHASE で (CO<sub>2</sub> の基準値が) 1000ppm でよいのか? といった提言 (山中先生) があるが、CO<sub>2</sub> 以外の物質も考える必要があるのではないか。(松尾先生)

- ・現実的には VOC を全ての部屋で測る (CO<sub>2</sub> 以外も計る) ことは現実的ではなく、当面 1000ppm の基準が続くだろう。(山中先生)
- ・CO の国際基準は 6ppm。(吉村委員)
- ・高効率換気方式を採用する前提でいえば、居住域の CO<sub>2</sub> の基準はできれば 800ppm 程度に抑えたい。エネルギーとのトレードオフがあるので、エネルギー的に難しいときは 1000ppm でよい。そうでないときに 800、600、といった具体的に、法律はともかく、学会基準に幅をもたせられないか。(山中先生)
- ・各戸に NDIR 方式の CO<sub>2</sub> センサがあるとよいが、一般的には 5 万円くらいで高いが、金先生の調査だと 1 万円以上のセンサであれば、性能がよいとされる。
- ・SwitchBot はかなり安価であり、8000 円以下で購入できる。(小椋先生)
- ・既存建物の改修の場合における空調換気が ZEB の達成的に難しい。(最近、営業に来られる方も多いが、) タスク空調は、ZEB の計算としては、空調削減効果とはならない。(阿部委員)
- ・野崎先生いわく、空気清浄機で 6、7 割くらいホルムアルデヒド等を除去できる。
- ・空気清浄器を使う代わりに換気量を小さくする場合を考えると、エネルギー的には空気清浄機の方が勝てそう。だが、空気清浄機は VOC をとってくれるが CO<sub>2</sub> を取り除いてはくれない。換気基準が CO<sub>2</sub> である以上、(空気清浄機を換気の代替とできるかは) 法制度的には難しい。(松尾先生)
- ・法改正をするレベルでなければ空気清浄機を換気の代替にするのは難しい。(山中先生)
- ・ISO や ASHRAE は CO<sub>2</sub> ではなく、人数と面積からの換気量を決めるようになってきている。
- ・ISHVAC (暖房、換気、空調等に関する会議) について、カノマックスがスポンサーになった。
- ・コロナ、感染対策 (の話題はシンポジウムの) は外せない。(山中先生)
- ・ウィルスは粒子なので、空気清浄機でとることもできる。(松尾先生)
- ・医療機関はビル管法がかからない。(適用除外となる室が多い。)(山中先生)
- ・病院は、コストがかかるため感染対策が思ったより進まない。(吉村委員)

・近年 PM2.5 は減ってきている。中国で改善。インドで増。(松尾先生)

## 5. 年度末の勉強会に向けての相談

(倉渕先生、大岡先生、篠原先生、鍵先生、金先生 らのお名前が挙がった。)

・倉渕先生なら、感染対策関連 (の話が面白そう)。(金先生)

・SHASE で映画館 4D 上映について、4D なので水を使用するが、吹き出し口にいる細菌の発表があったが、柳先生の発表だったと思う。(by 竹村先生)

・鍵先生は化学物質系のお話や ZEB と換気の話についての可能性もある。(竹村先生)

・(倉渕先生、鍵先生へ依頼する可能性がある中で、) 例えば、「これからのポストコロナ時代の感染対策を考えた換気といった広い括りでまとめて、自由度を高くしてお願いする方がよいのでは。(山中先生)

・上記のような話があったことを金先生から倉渕先生にお伝え頂いたで、竹村先生からお願いする。鍵先生には、竹村先生からお願いする。

・室内環境学会の共催についてはメール審議。

## その他

・SHASE 近畿・学術研究発表会は 3 月 4 日。

・次回日程は追って調整。

→ 2026 年 1 月 20 日 (火) に決定。

次回は、3 月の勉強会を踏まえての話とする。

以上